

核戦争防止 兵庫医師の声

第 84 号 2011 年 12 月号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒 650 - 0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会内

電 話 078 (393) 1807

振 替 01130-6-57830

反核医師の会総会 記念講演会

被爆者苦しめる戦争被害受忍論

核戦争を防止する兵庫県医師の会は 8 月 20 日、第 30 回総会を兵庫県保険医協会会議室で開催し、45 人が参加した。記念企画は、九州大学准教授の直野章子氏による講演「被爆者の声を聴いてきて」と被爆ピアノ平和コンサートを開催した。

直野氏は、政府が戦後貫いてきた、太平洋戦争で日本国民が受けた被害は、すべての国民がひとしく受忍しなければいけないという「戦争被害受忍論」が、原爆被爆者たちを苦しめてきたと述べた。こうした「戦争被害受忍論」により、原爆被爆者対策が戦争被害の補償ではなく、「特別の社会保障」と位置づけられたために十分な保障ができていないと解説した。また、今回の東京電力福島第一原発の事故に際しても、すでに被爆者への差別が発生していると懸念を表明した。

続いて行われた被爆ピアノコンサートでは、「国際平和デー会議」で、国連の潘基文国連事務総長の前で演奏を行った林琢也氏のピアノ演奏と石崎育子氏によるヘルマンハーブの演奏が行われた。

総会議事では、活動方針として、政府の原発依存のエネルギー政策から転換を求める活動を行うこと、全国反核医師の会作成の核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) パンフレット日本語版の普及を進めることが確認された。

核戦争を防止する兵庫県医師の会

2010 年度活動報告と 2011 年度方針

活動方針

(1) 本会は、設立総会開催 (1982 年 7 月) から 30 年目を迎えました。

設立以来、非核・反核の情報交流につとめてきました。諸活動としては、会報「医師の声」の定期発行、反



講演する九州大学准教授の直野章子氏

核パネルや反核リーフレットの製作・普及、反核平和映画の製作協力や貸し出し、被爆者の会への援助、各地の医師の会との交流、IPPNW (核戦争防止国際医師会議) の世界大会と地域会議への代表派遣、県内の反核平和団体との協力などを行ってきました。また、本会独自の反核展の開催などを通じ、核兵器廃絶を願う草の根の団体として患者・県民に医師の立場からの働きかけを行うなど、継続して活動してきました。結成当時 198 人であった会員数は、86 年には 500 人を超えましたが、高齢・病気等による会員の退会などで一昨年には 253 人となりましたが、その後、新しいリーフレットを作成し、入会を大きく呼びかけたことにより会員を増やし、現在 257 人となっています。

(2) 2010 年度の活動

①第 29 回総会では「2010 年 NPT 再検討会議の意義と今度の課題」をテーマに原水爆禁止世界大会起草院長で関西学院大学教授の富田宏治先生に講演いただき、30

1面からつづく

人が参加しました。

②近畿反核懇談会の枠組みで、実行委員会を結成した「第21回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 奈良」で主導的役割を果たし成功させました。

③「第21回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 奈良」には、9人の運営委員と4人の会員が参加しました。

④原爆症認定集団訴訟では、被爆者検診と相談会を開催。また日本被団協の呼びかけにこたえ、集団申請運動に取り組みました。引き続き事務所・連絡先を引き受けるなど、支援ネットワークに協力し積極的役割を果たしました。郷地運営委員が兵庫県保険医協会理事会やIPPNW京都支部総会での講演活動を行うとともに、会として、著書『原爆症』・講演録『医師たちの原爆症』（保団連発行）の普及に努めました。

⑤2009年原水爆禁止世界大会(8月4日～6日・長崎)に2人の運営委員が参加しました。国民平和行進(兵庫県内行進7月7日～16日)にも、小泉運営委員などが参加しました。

⑥第30回兵庫の「語りつごう戦争展」(2009年12月15日)の協賛団体として、協賛金の拠出などを行いました。池内運営委員が呼びかけ人をつとめています。

⑦非核「神戸」方式35周年記念集会(2010年3月18日)に参加・協力しました。

⑧会報「反核医師の声」を発行し、会の取り組みや核を巡る問題の情報提供を行いました。

⑨IPPNW元会長のメアリー・ウイン・アシュフォード氏の著書『平和へのアクション101+2』の普及に努めました。

⑩非核の政府を求める兵庫の会にも引き続き協力し、市民学習会「くらしの根っこにある`核」(10年8月19日、講師：未来バンク事業組合理事長・田中優氏)、「原子力の『平和利用』は可能か？」(10年10月8日、講師：京都大学原子炉研究所・小出裕章氏)、「ヒバクシャと僕の旅」上映会(10年12月17日)『内部被曝』問題と核／原子力体制(講師：ICBUW評議員・神戸大学教授・嘉指信雄氏・11年4月15日)、「原発の『安全神話』を考える」(講師：小出裕章氏、映画監督・瀬戸内あや氏・11年6月11日)を開催。医師の会員の協力は80人となっています。小泉、郷地運営委員が、常任世話人を務めています。

⑪九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運

動に積極的に取り組みました。

(3) 情勢

核兵器廃絶をめぐる情勢は、2010年NPT再検討会議の合意の実行、とりわけ「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ための枠組みづくり、核兵器禁止条約などの特別な努力の実行などを最大の焦点としています。最大の核保有国アメリカは、昨年の国連軍縮審議でも、核兵器のない世界を追求することを確認し、新STARTの批准といった削減、CTBTの発効、カットオフ条約の交渉開始などの努力を強調していますが、核兵器禁止条約について「核軍縮関連の国際交渉にとって『反生産的』」であり、「デッドロック(行き詰まり)」をもたらすばかり」と主張しています。しかし、一方で、米国はオバマ政権のもとでも、昨年9月、11月および今年3月にも未臨界核実験をおこなっており、核兵器の保有や配備を継続し、使用に備える姿勢を示しています。これは、2009年4月、オバマ大統領がプラハで約束した「核兵器のない世界を追求する」との目標に逆行するものです。

3月11日に、東日本を襲った巨大地震と津波、福島第一原発の炉心溶融事故は、広島・長崎の被害から、被爆者の救援を原点のひとつとして活動している私たちにとっても重要です。政府と電力業界は一体となって、原子力発電の危険性について警鐘を鳴らす研究者、識者、住民の運動を無視し、安全神話を振りまいてきました。こうした情勢の下で、日本でも、今では国民の半数以上が、原子力発電に反対しています。今こそ、原発依存の脱却、再生可能エネルギーの開発促進など、エネルギー政策の根本的な転換が求められています。また、私たちは、人々の命と健康を守る医師の使命として、被災住民にたいし万全の救済と補償をはかることを求めます。

一昨年9月鳩山首相は、「核兵器廃絶の先頭に立つ」と宣言しましたが、その後、菅首相のもと、民主党政権下ではじめて策定した新防衛大綱には、「核抑止力を中心とする米国の拡大抑止は不可欠」などと「核抑止力」を明記し、沖縄・普天間基地の移設問題では、「在日米軍は抑止力」などと「最低でも県外」との公約を覆し、沖縄・名護市への移設を決めてしまいました。沖縄では、こうした政府の裏切りに多くの県民が怒り、知事選挙では、県民が当選した現職候補に「普天間の県内移設反対」を公約させています。

東日本大震災にあたって、政府は10万人の自衛隊員

2面からつづく

と最大2万人の米軍との「トモダチ」作戦を展開し、マスコミによる日米同盟美化のキャンペーンが行なわれました。日本が在日米軍のために支払っている総額は7200億円、思いやり予算は1882億円にのぼっています。もともと条約上の義務も根拠もない「思いやり予算」は、不要不急の費用の最たるものとして、復旧費用に当てるべきです。

2010年NPT再検討会議の合意や沖縄県民の怒り、原発に反対する多くの国民の声を力に、核兵器廃絶と原発依存のエネルギー政策からの転換のために奮闘しましょう。

(4) 今年度の重点課題

- ①交戦国の核攻撃を受けた唯一の被爆国の医師として、また、人命を守る医師の社会的責務を自覚し、医師らしい創意ある活動を進めます。
- ②被爆者との交流と援助活動を進めます。特に被爆者医療の取り組みを重視し、原爆症認定被爆者集団訴訟を支援します。郷地運営委員の著書『被爆者医療から見た原発事故』の普及に努めます。
- ③核実験に反対し、核兵器廃絶を求める国際的世論と共同し、運動していきます。
- ④講演会の開催など、医師として運動を社会的にアピールする取り組みを進めます。特に医療関係者と次世代への「語り継ぎ」を課題に、医学生などへの働きかけや市民向けの企画も随時開催していきます。

■会計報告

反核医師の会会計報告

収入の部		支出の部	
会費	208,000	Web制作費	70,350
寄付金	79,500	ニュース印刷・発行	103,797
		会議費	30,630
		協賛金	100,000
		雑費	3,760
		書籍	22,100
		渉外	79,000
		総会	39,150
繰越金	502,849	通信費	1,679
		繰越金	339,883
合計	¥790,349	合計	¥790,349

2010年7月1日～2011年6月30日

⑥2011年に埼玉で開催される「第22回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉」に参加します。

⑦非核の政府を求める会・非核神戸方式記念集会実行委員会など県下の反核諸団体との交流・協力を一層強め、これらの団体の取り組みの成功にも協力します。

⑧会報「医師の声」の定期発行と、学習・講師派遣活動、反核DVDの貸し出しなどを積極的に進めます。

⑨リニューアルしたリーフレットを活用し、会員を増やすため引き続き加入を呼びかけます。

■核戦争を防止する兵庫県医師の会運営委員

代 表	口分田 勝
運営委員長	林 祐介
委 員	池内 春樹
	池本 恒彦
	井村 春樹
	内田 敬止
	加藤 擁一
	川西 敏雄(新)
	小泉 勇
	幸原 久
	郷地 秀夫
	武村 義人
	田中 孝明
	西山 裕康(新)
	宮崎 義彦
	森 達哉(新)
	柳井 映二

第22回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉 感想文

地元議員に反核平和の訴えを

運営委員 池内 春樹

核戦争に反対する医師の会（全国）は11月5、6日第22回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉をさいたま市内で開催。全国から408人の医師、歯科医師らが、兵庫からは林祐介運営委員長をはじめ、池内春樹、武村義人、川西敏雄各運営委員、八木秀満会員が参加した。

第22回『核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉—この世界に核兵器も原発もいない』が、さいたま市浦和区で開かれた。会場の市民会館には、全国から400名近くの医師、医学生、市民が参集した。

女優の斎藤とも子さんが「父と暮らせば」を演じるにあたって、被爆地広島を訪問し被爆者と知り合い今も被爆者に支えられながら交流が続いているとのお話を織り交ぜながら詩を朗読された。

続いて「放射線被爆と医の倫理」の記念シンポジウムで、自らも被爆者である肥田舜太郎医師、日本原水爆被害者団体協議会事務局長の田中照己氏、被爆者裁判に長く関わってこられた弁護士の大久保賢一氏のお話があった。肥田先生は被爆当時何もできなくて申しわけない、福島でも「原爆ぶらぶら病」が必ずでるだろう。内部被ばくの問題は、米国が軍事機密としたため研究が進んでいない、いまこそ研究すべき問題だと話された。



会場のさいたま市民会館うらわには全国から408人が集まった

続いて民主、公明、共産、社民、みんなの国会議員がつどい、NPT再検討会議や北東アジア非核地帯構想や国連情勢や福島原発問題について熱く語り合った。つどいに国会議員が参加されたのは初めてであるが、党派を超えて反核に取り組んでおられる国会議員がおられる、地元選出国会議員への反核平和の訴えの重要性を再確認した。

懇親会では全国から参集した医学生が一人一人自己紹介し頼もしかった。来年は是非神戸大学や兵庫医大からも参加できるようにしよう。

ICAN (国際核廃絶キャンペーン) パンフレットの ご活用を!!



核兵器禁止条約の多国籍交渉を2015年までに開始しようという声を高めるための国際キャンペーン「ICAN」。この活動を紹介するパンフレットの日本語版を、核戦争に反対する医師の会（全国）が作成しました。ぜひ、ご活用下さい。

ご注文は、
TEL 078-393-1807（事務局・平田まで）



本の紹介

『被爆者医療から見た原発事故』

白岩 一心

かもがわ出版から、被爆者医療に長年携わって来られた、医師・郷地秀夫先生、最新著書『被爆者医療から見た原発事故』という本をご紹介します。

福島原発事故後の、原発問題に関わる本がたくさん出版されていますが、郷地秀夫先生は、医師の立場から原発事故が、最初から防御できなかったつらさをあからさまに綴っておられます。

外部被爆と内部被爆の健康への影響だけでなく、将来的な医療のあり方も警鐘されています。「想定外」という繰り返される専門家の言葉が許されない事も詳しく資料を添えて述べておられます。

郷地秀夫先生は、原発事故の加害者でないのに、まるで、ご自分の責任かの表現が目立ちます。そんな部分に特に胸を痛めます。全国各地で、放射線濃度を測定していますが、測定方法の矛盾点、真のデータが公表されな

いだけでなく、敢えて測定を阻む政府や他国の影響があるかもしれないことも論述されておられます。

今後起こりゆくことは、「確率的影響」と「確定的影響」の両面から向き合う根拠もわかりやすく説明されています。全般を通して、郷地秀夫先生の被爆者医療のご経験を生かされた内容と今後の情報公開のあり方に終始されています。

一番強く残る言葉は、「コントロールしきれない、原発事故は、原子爆弾になるのだ」です。

平和を希求する、郷地秀夫先生最新著書の一部、感想とともに紹介しました。

悲しみの人災である、原発問題に新たに歴史の一ページを作る内容です。年齢や性別、職業を問わず、読んでいただける分かりやすい本ですので、皆さんも、是非ともお読みになることをお勧めします。

被爆者医療から見た原発事故 —被爆者 2000 人を診察した医師の警鐘—

◆目 次◆

1. 巨大エネルギーによる破壊の恐怖
2. 原爆放射線被曝と原子炉事故被曝
3. 操作されてきた情報
4. 虚構の中の文部科学省
5. 何が真実か？放射線汚染の真実を求めて
6. これから心配なこと？
7. 日本の責任、私たちの責任
8. 被爆国の役割



郷地 秀夫【著】

かもがわ出版（2011/08/28 出版）

111p / 21cm / A5 判

申し込みは、
TEL 078 - 393 - 1807
事務局・平田まで

推せんします

兵庫県保険医協会 理事長 池内春樹

兵庫県保険医協会副理事長で長く被爆者医療や原爆症認定訴訟に関わってきた郷地秀夫先生が、大江健三郎やパールバックを愛する詩人の目と、冷徹な科学者の目で3.11の福島第一原発事故を見つめ、「原発は原爆だ」「広島・長崎を経験した私たち日本人は改めてこれ以上被爆者を増やさないために核兵器と原発全廃を目指さなければならない」との立場から素晴らしい本を書き下した。巻末には全日本民主医療機関連合の原発事故対応マニュアルもあり、未来を担う子供たちのために是非全ての医療機関の待合室に備えていただきたい本である。

兵庫県保険医協会

原発からの撤退を決断し、エネルギー政策の転換を求める 請願署名にご協力をお願いします

兵庫県保険医協会環境・公害対策部長 森岡 芳雄
(反核医師の会・会員)



3月11日の東日本大震災により、原子炉がメルトダウンした東京電力・福島第一原子力発電所から放出された大量の放射性物質は、原発周辺はおろか世界中を汚染しました。放射線障害は被ばくから何十年も後に現れ、少量の被ばくでも、がんなどの発生率を高めるため、今後甚大な被害が予想されますが、政府・東京電力は「ただちに健康に影響はない」との発言を繰り返し、事故の現状や被害状況など正確な情報を公開しようとしません。



今回の事故は、安全神話が電力会社による「やらせ」でつくられ、政府と財界が一体になって利益共同体をつくり、国民を欺いてきたことを明らかにしました。そして、原発がいったん事故を起こすと収束困難であること、放射性物質の最終処理方法が決まっていないことなど諸問題を国民に突きつけています。

原子力に依存しないエネルギー政策に転換し、全原発を一刻も早く停止させることが求められます。

協会・保団連は、原発からの撤退を決断し、エネルギー政策の転換を求める請願署名に取り組むことを決定いたしました。請願項目は、①福島第一原子力発電所の事故を一刻も早く収束させ、廃炉にすること②原発の新規計画を中止し、既存の原発は計画的に廃炉にすること、③原発からの撤退を決断し、日本のエネルギー政策の転換を図ることの3点です。

署名の趣旨にご理解賜り、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。同封の返信用封筒にてご返送下さい。

※署名用紙の追加注文、お問い合わせは、

兵庫県保険医協会事務局・小西 (Tel 078-393-1807、FAX078-393-1802) まで

非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会

放射線の影響をどうみるか？ —福島原発事故9カ月を経て—

日 時 2011年12月17日(土)15時～17時

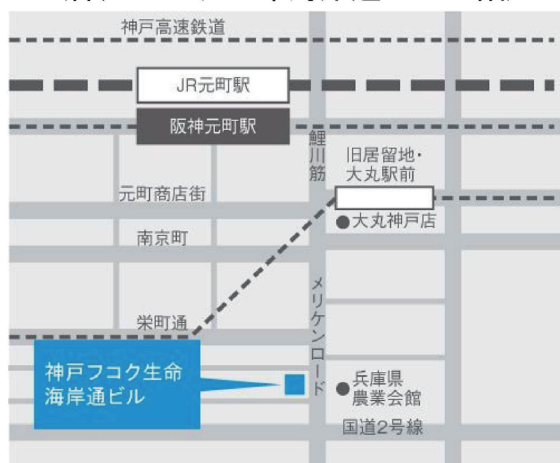
会 場 兵庫県保険医協会5階会議室

講 師 神戸大学発達科学部教授、工学博士 中川 和道 さん

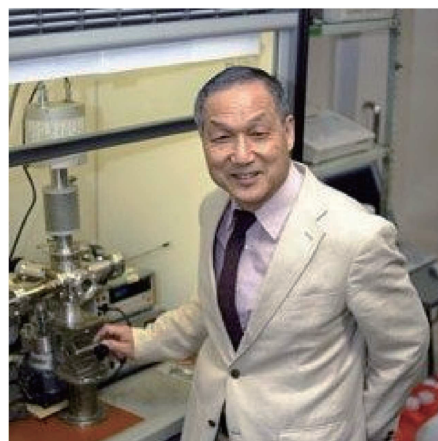
※どなたでもご参加できます。参加費無料

いまだ終息の目処がたたない311福島原発事故から9カ月を経た現在、放射線の人体に与える影響に関して、避難と除染はどうあるか？関西での影響はどうか？食生活はどうすべきか？などなど、市民の不安に答えるべく、科学リテラシー、科学コミュニケーション、リスクコミュニケーションの視点で、放射光物性物理学・環境物理学の専門家の中川和道さんにお話しいただきます。

保険医協会会議室
(神戸フコク生命海岸通ビル5階)



JR・阪神「元町」駅下車東口から南へ徒歩7分
お車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。



中川和道(なかがわ・かずみち)さん
1950年生まれ、愛媛県出身。名古屋大学工学部原子核工学科卒、同大学院博士後期課程修了。東京大学教養学部助手、神戸大学教育学部助教授を経て、現在、神戸大学発達科学部教授。

お問い合わせは、事務局

電話 078-393-1833 e-mail shin-ok@doc-net.or.jp まで

協賛： 市民社会フォーラム、神戸YWCA 平和活動部、日本科学者会議兵庫支部

非核の政府を求める兵庫の会 第26回総会記念講演

放射能汚染調査から見た 福島とチェルノブイリ

日 時 2012年2月19日(日)14:30～16:30

会 場 生田文化会館大ホール (神戸市)

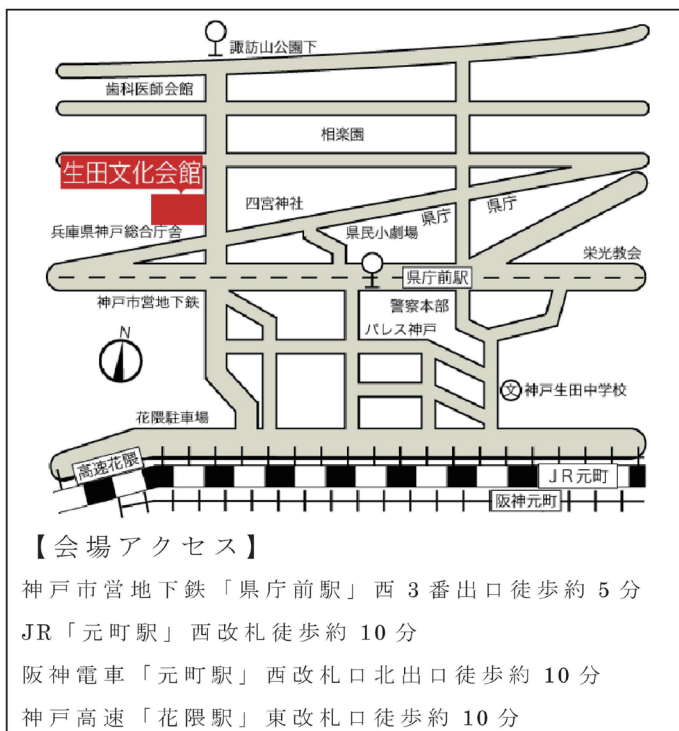
講 師 京都大学原子炉研究所 今中 哲二 さん

参加費無料 どなたでもご参加できます。(会員の皆様は総会議事 13:30～からご出席ください)

311 福島原発事故と 86 年のチェルノブイリ原発事故、この二つの事故後に現地調査をされた今中哲二さんに、原子力発電の危険性と放射線汚染の状況について、講演いただきます。

お問い合わせは、事務局 電話 078-393-1833 e-mail shin-ok@doc-net.or.jp まで

協賛：市民社会フォーラム、神戸 YWCA 平和活動部、
日本科学者会議兵庫支部



今中 哲二(いまなか・てつじ)さん

1950年生まれ、広島市出身。専門は原子力工学。大学院時代より原子力開発の在り方に疑問をもちはじめ、原発を推進するためではなく、原発利用にともなうデメリットを明らかにする研究に従事。広島・長崎原発による放射線被曝量の評価、チェルノブイリ原発事故の影響解明、セミパラチンスク核実験場での放射能汚染調査などを行っている。『原発を終わらせる』(石橋克彦編、岩波新書、2011)に「原発事故の災害規模」を執筆。